

## 平成25年度3年生皮膚科伊藤担当分試験問題

各文章を読み( )内にその疾患名か、設問の答えを書きなさい。またその疾患をカラー写真から写真(ア～セ)と組織標本(1～12)を選んで[ ]に記入しなさい。  
(写真と組織は同一の患者さんのものではありません)・・・まず写真プリントに診断名を書いておくと回答が早い。

1. 転移しやすく、悪性度の高い腫瘍で、皮膚以外にも生じることがあるが日本人では( )に生じる割合が多い。  
母斑との鑑別診断ではABCDEの頭文字で皮疹を表現することもあるが、Bは( )である。  
この腫瘍の診断のための検査では、( )は、禁忌とすべきである。所属リンパ節の郭清を行うか否かについては色素やRIを用いる( )を行う場合がある。  
この腫瘍は( )で、その臨床写真は[ ]で、組織は[ ]である。  
また、この疾患の手掌・足底のダーモスコープ所見の写真は[ ]である。

2. 皮膚良性腫瘍の中では頻度が高く、ときには「脂肪のかたまり」と間違えて説明されることもある腫瘍である。  
嚢腫であり、切開して内容除去しても多くは再発し拡大するため( )する必要がある。  
この腫瘍は( )で、その臨床写真は[ ]で、組織は[ ]である。

3. 皮膚癌手術の中では最も多い。多くは顔面に生じる。一種の過誤腫で、転移は極めて稀である。局所侵襲性は強く、( )まで浸潤する例もある。  
この腫瘍は( )で、その臨床写真は[ ]で、組織は[ ]である。  
また、最近では、ダーモスコープでの診断が有用とされており、その写真は[ ]である。

4. 湿疹様紅斑や白斑として始まり、後に湿潤・びらん性局面を呈する。進行すると局面内に( )がみられ、所属リンパ節転移が生じる。初期では( )や( )と誤診されることがある。  
この腫瘍は( )で、その臨床写真は[ ]で、組織は[ ]である。

5. 短期間にこの皮膚腫瘍の多発と皮膚そう痒症を伴うと( )と呼ばれ、内臓悪性腫瘍の合併率が高い。  
この腫瘍は( )で、その臨床写真は[ ]で、組織は[ ]である。

6. 動脈性潰瘍の多くは足部に生じるが、これが( )によって生じる場合と、( )によって生じる場合の一番最初に行うべき鑑別方法は、( )である。この臨床写真は[ ]である。  
虚血性足病変の進行分類で、足に潰瘍・壊疽を伴う場合は、( )分類の( )度である。

7. 静脈性潰瘍の原因は1次性と2次性の( )が主なものであるが、1次性では( )や( )などの手術治療がある。また、1次性伏在型でない小さいものには( )を行う。  
この疾患の臨床写真は[ ]である。また、2次性の主な原因には( )がある。  
1次性・2次性ともに共通する重要な治療法として( )がある。

8. 糖尿病性足潰瘍には、( )によって生じる水疱や鶏眼・胼胝が原因になる場合と、合併する( )によって生じる場合がある。前者の臨床写真は[ ]である。  
前者は、( )によって治療するが、後者の治療は( )が必要になることもある。

3年生( )番 氏名( )